

校長室だより
NO. 56
平成31年3月22日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

平成30年度の子どもの学び ～子どもは育てたように育つ

3月20日(木)、平成30年度の卒業式、お別れ式が、厳粛な中、行われました。卒業生127名は、「私のチャレンジ 夢への一步」の言葉とともに、立派に梅園小学校を巣立っていきました。

そして、本日22日(金)は、本年度の修了式の日です。この1年間、子どもたちは、多くのもの、こと、人とかわりながら学び、成長しました。体が大きくなってきたことに加え、心も育ってきています。また、ものの見方・考え方も徐々に確かになってきています。今回は、そんな本年度の子どもの成長を、教師の指導記録から取り上げてみました。そして、どのような活動が子どもにとって効果があったのかについて考えたいと思います。



満開の菜の花で祝う卒業式

○ 1学年の学級担任の指導記録

この1年間ですいぶんたくましくなりました。忘れ物など多少困ったことがあっても泣くことはなくなり、そのことを自分で言えるようになりました。また、体育の時間には、指示しなくても準備体操をしたり、必要なものを準備したりできるようになりました。一番感心するのは、生活科のこまの技を発表したとき、一人一人の時間がかかったにもかかわらず、集中して聞くことができたことです。そして、成功した子には、ハイタッチや拍手などをして、自分のことのように喜んでいました。失敗した子には、「惜しい」「もうちょっと」「落ち着いて」などの励ましの言葉をかけていました。自分のことだけでなく、友達のことも考えられるように成長していて、うれしく感じました。6年生に感謝の気持ちを伝えるメッセージを渡したとき、それとは別に、子どもは思い思いに手作りのプレゼントを用意していました。強制ではなく、子どもたちのやりたいという自主的な思いで実現していました。これまで6年生がどう接してくれたのかよく分かりました。そして、6年生のためにこんなことまでできるようになった1年生に成長を感じました。

○ 2学年の学級担任の指導記録

子どもたちにはたくさん挑戦ができるようにしました。並ばせ係が学級代表としてリードできるように、卒業を祝う会の出し物では並ばせ係が自分たちで6年生への歌詞を作り、踊り担当の子どもがクラスの友達に振り付けを指導するようになりました。そして、自主的に集まって練習する中で堂々とせりふを言ったり、責任を持って取り組めたりできました。また、学級での「善博先生・黒野先生ありがとうの会」では、司会が進行の言葉を考えて自主的に練習したり、ゲーム係がゲームや言葉の準備をしたりしました。子どもたちの力でこれだけのことができるようになったのは、大きな成長です。今後も、やる気に溢れている子どもの気持ちをさらに育てていけるようにしていきたいです。もちろん、低学年のうちに身に付けたいいけないことをきちんとすることも学びました。それが、子どもたちに社会のルールやきまりを守るにつながると 생각합니다。

○ 5学年の学級担任の指導記録

4月当初、5年生の子どもたちは、パワフルで、自由で、自分の好きなことにすぐ熱中するものの、友達のことを思いやったり、人のために行動したりする姿があまり見られないという印象を受けていました。高学年になったので、まずは、人のために進んで行動できる子どもたちになってほしいと思い、よい行動をした子を学級通信で紹介し続けました。今では、いろいろ



お別れ式(6年と1~3年)の入場

な場面で「先生、代わってやります」と言って、担任以外の先生の手伝いも進んでできるようになりました。よい行いは、子どもたちが「ほめられる喜び」を実感するきっかけとなり、授業で発言をがんばったりできました。また、学年で合唱するとき大きな口をあけて大きな声を出して歌うことができたり、いろいろな面で見られ、この1年間、大きく成長したなあと感じさせてくれます。

○ 6学年の学級担任の指導記録

子どもたちは、自分から動くことができるようになりました。その中でも「下級生のためになること、1年生が喜びそうなこと、6年生として」ということを考えて動くことができるようになりました。人任せな部分はまだまだありますが、学年や学校全体にかかわることは変わってきました。例えば、花職人(委員会)の子が花が心配だから水やりをしてくれたり、ペア交流では1年生がけがをしないように障害物を除いたり、掃除は学校の手本になると言って無言でやることを呼びかけたりして、自分たちで最高学年として自覚を持って行動する姿が見られました。人によって差はあるものの、一人一人が成長できました。学級のことで、友達づきあいを心配していた子は、けんかや陰口を言ったり、1学期は難しい期間でした。しかし、相手のことを考えられるように話し合いを繰り返して、3学期には、1学期には想像もできない、いい雰囲気をつくることができました。笑顔や笑い声が増え、みんなで力を合わせられるようになりました。卒業式に6年生の気持ちの高まりを見せたいと思います。



卒業式後の6年の教室

まず、1年生と6年生について、ペア交流により6年生が自分から進んで下級生のことを考えて動くようになってきました。また、かわり合いを通して、学級内の雰囲気もよりよくなってきたようです。1年生も6年生からの思いやりを受けて、6年生のためになることをしようと考えられるようになってきました。2年生は、い

ろいろなことに挑戦できるようにすることで、やる気に溢れる子どもとなってきてきました。5年生は、一人一人のよさを認めることで、自分から考えて行動できるようになってきました。まさに、「子どもは育てたように育つ」ものなのです。私たちの子どもへの願いを具現する働きかけにより、確かに成長していることが分かります。

最後になりますが、本年度の梅園小学校の教育活動に対して、保護者の方々の多くのご理解とご支援をいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。来年度も本年度の課題をもとに、子どもが生き生きとする創意工夫を凝らした教育を試みていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、3学期の学校評議員会の内容について、裏面で紹介させていただきました。

第3回学校評議員会を開催しました

平成30年度の締めくくりとして、3月12日（火）、本年度第3回目の学校評議員会を開催しました。本年度の学校評議員の皆さんは次の方々です。

鈴木 義明 様（梅園学区総代会長）
本多 孝美 様（梅園学区社会教育委員会委員長）
大山 恵子 様（梅園学区主任児童委員）
植田 晃圭 様（梅園小PTA会長）
山本 由美 様（梅園小PTA副会長）

なお、鈴木様はご欠席でした。

内容は、この3学期の学校の状況を、子どもの様子や学年末の教育診断アンケート結果を説明した後に、学校評議員さんから、多方面からのご意見、ご質問等をいただきました。

そして、それに学校側が答える形で進めました。次がその主な内容です。

（○：ご質問、◇：意見、→：回答）



トイレ掃除に学ぶ会
(3月16日)

【地域への意識】

◇ 子どもは「今、住んでいる地域が好きだ」について、9割がA（あてはまる）とB（どちらかといえばあてはまる）と回答した。これに対して保護者は半分である。地域の行事で負担をかけてしまっているのかもしれない。CとDを選んだ人たちが、子どもが小さいうちに「この地域でよかった」と思えるようにしたい。

【スマホの問題】

- スマホを学校に持って来てもよいという報道等を聞くが、岡崎市の状況はどうなっているのか。
→ 特に問題になっていない。家庭からも話題になっていない。今後、災害等の関係で検討する必要があるれば検討を行います。
- ◇ スマホだけでなく、DSもネットにつながるので、SNSでのいじめに注意した方がよい。

【子どもの様子】

- ◇ 通学等を見ていると、学年によって違うので、来年度の初めは、よいスタートができるように上手に指導してほしい。特に、親と子のかかわりが少ない家庭や自分の子どものことを他人事のように話す家庭が心配である。
→ 家庭とは連携を取っていきます。アンケート調査の「A」が減ってきているので、特に学校側から働きかけをしていきます。
- 特別支援学級の親同士のつながりはどうなっているのか。送り迎えのときにあまりあいさつをしていないようだが、どうか。
→ 連携はとれていると思っています。学校でも話す機会を持っています。
- ◇ 梅園小の特別支援学級に行かせたいと思っている親が多く、行き届いた指導をしていると言われている。

→ そう思っていることはありがたく思っています。障害に合わせた指導ができるように、保護者とも相談をしながら進めています。

○ 特別支援について、普通学級でも該当するような子どもがいると思うが、学年が上がるときに配慮があるのか。

→ 学年が上がる半年前くらいからの早い段階で保護者との面談を行い、どうすることが子どもにとってよいことなのか考える機会を設けています。できるだけ早い段階から、その子どもに合った教育をすることが、子どもの様々な能力を身に付け伸ばすことができると考えています。また、そうすることで、これまで生き生きと生活できるようになった子どもを何人も見てきています。子ども自身では判断ができないので、大人の教師や保護者が適切に対応できるようにしていかなければいけないと考えています。

【行事】

◇ 2学期の行事が多いのではないかと、楽しいけど行きたくないと言う子どもがいる。

→ 問題があるとすれば、その取り寄せ方とします。行事についても、その行事で子どもがどんな能力を身に付けることができるかを考えた上で行っています。



トイレ掃除に学ぶ会(感想を語る子ども)

【アンケート調査】

◇ 目に見える範囲では問題はないので、一般の保護者の方も同様と思う。まずは、アンケート調査で「D」と回答している人たちへの働きかけと思う。

→ 教育診断アンケートは無記名式であるので、誰がどのように回答しているか把握はできないが、生活アンケートについては把握して、こちらからの働きかけでその子がどのように変容するかを探っています。

【来年度の年間予定】

○ 来年度の行事はどうなるのか。

→ 来年度は特別な年度となります。休みの日数が多く、また学習指導要領の改訂の前年で、英語（高学年）や道徳（全学年）が教科化となり、前倒して実施されます。また、岡崎市では「キッズデー」と言って、2学期の始まりを早くして秋に休みを取るようになります。

これまでとの違いは、まずは授業時間確保を考えなければなりません。そのため、家庭訪問期間は5時間授業の日として少し多めの期間としたり、行事を精選したりする工夫をします。なお、子どもが楽しみにしている遠足などは現状のままとします。

5人の学校評議員の方々には、この1年間、梅園小学校の学校運営から子どもの様子まで丁寧に見ていただき、事あるごとに適切なご助言をいただきました。このように、この1年間、共に歩んできましたことについて感謝しています。来年度にも、いただいたご意見等を生かしていきたいと考えています。